院内発生の未然型SIDSに関する研究
(分担研究：乳幼児の突然死に関する研究)

戸苅　創*
加藤稲子

要約：未然型SIDSのうち比較的発症状況の把握が可能なNICU内発生例につき、その発生時の状況、経過および予後について検討した。7例中5例が低出生体重で、発生平均日例は40、修正在胎週数は39.4であった。発見時刻は準夜帯、深夜帯に多く、マスク　アンド　バッグの蘇生後2例が人工呼吸器を必要とした、CP、MRを残し1才9ヶ月で死亡した1例を除き良好な発達発育を示した。

見出し語：SIDS、乳幼児突然死症候群、未然型SIDS

目的

本邦における未然型SIDSの詳細はSIDSと共に不明な点が多い。一方で、NICUを退院していく児の中で、酸素投与等医学的管理を必要としなくなりコットで退院待ちの間に未然型SIDSを発症する児のいることが知られている。そこで、家庭内発生と異なり、比較的その状況調査が可能な院内発生未然型SIDSについて、発生時の状況、経過および予後の検討を行った。

研究方法

対象は1979年1月から1989年6月までに名古屋市立大学病院および関連5施設のNICUにおいて、急性期を過ぎてコット内で酸素投与をせずに退院予定にて経過観察中の全身状態良好な児のうち、厚生省研究班の定義する未然型SIDSに合致した7例である。

結果

7例のうち男児は5例、女児は2例。平均出生体重および在胎週数は各々2000g、33.6週であった。7例中5例が低出生体重児で全例出生時に酸素投与を受けていた。発症時の平均生後日令および修正在胎週数は各々40.0日、39.4週であった(表1)。発症時刻は18時から翌朝の6時台、即ち準夜および深夜帯に多い傾向が認められました。発見時の蘇生法は確認し得た6例で全例マスク　アンド　バッグが行われており、うち2例はその

*名古屋市立大学小児科
(Dept. of Pediatrics, Nagoya City Univ. Med. Sch.)

後も人工呼吸器による呼吸補助を必要とした（表2）。7例の神経学的予後をみると、CP、MRを残し1才9ヶ月で死亡した1例を除き、全例発達および発育に異常を認めていない（表3）。

考察

未然型SIDSは管理の行き届いたNICU内でも発生し、それゆえに未然型として救命されたとも考えられる。即ち、今回の症例はSIDSとなっていた可能性もあることからその状況調査は重要であり、今後、これらの児の出生前あるいは出生後の諸因子に関しての詳細な検討が行われ、過去に蓄積したSIDS児、未然型SIDS児のデータと対比することにより、SIDSを含めた本症候群の解明がなされるものと思われる。

表1　未然型SIDS 7例の出生時の状況

症例	性別	在胎週数	出生体重	Apg. score	NICU 入院の状況	入院後の経過
1 S.K	女	32W 3d	1900g	4(1')	低出生体重	N-CPAP 3時間　O_2日齢14まで
2 K.K	男	33W 2d	2020g	9(1')	低出生体重	O_2生後1時間30分
3 M.T	男	40W 4d	2740g	—	初期嘔吐	日齢10以降嘔吐（−）
4 S.Y	女	39W 2d	3420g	10(1')	感染	抗生剤3日間
5 K.T	男	31W 5d	1430g	4(1') → 8(5')	低出生体重 RDS	呼吸管理5日間 日齢2　PDAメフェナム酸投与
6 G.S	男	24W 5d	913g	2(1') → 4(5')	低出生体重	呼吸管理44日間 日齢10 PDAメフェナム酸投与 日齢55 O_2 中止
7 S.W	男	33W 0d	1576g	3(1') → 8(5')	低出生体重	O_2出生時のみ

表2　未然型SIDS発症時の状況

症例	発症日齢	修正在胎週数	発症時期	発症時刻	発症前の姿勢	発症時状況	蘇生法およびその後の経過
1. S.K	25d	37W 0d	6月	3:55	?	チアノーゼ	鼻口腔吸引　刺激にて蘇生
2. K.K	17d	35W 5d	7月	19:15	?	チアノーゼ 呼吸停止	mask and bagging
3. M.T	13d	42W 3d	3月	12:50	20分前　啼泣 激しく　腹臥位へ	チアノーゼ 呼吸停止 心拍停止	mask and bagging　心マッサージ ↓ 挿管にて呼吸管理 3日間
4. S.Y	7d	40W 2d	3月	6:35	30分前　啼泣 激しく　腹臥位へ	チアノーゼ 呼吸停止	mask and bagging ↓ クベース内でO_2 2日間
5. K.T	52d	39W 1d	4月	21:30	腹臥位	チアノーゼ 呼吸停止 心拍停止	mask and bagging ↓ クベース内でO_2 3日間
6. G.S	114d	41W 0d	12月	18:00	?	チアノーゼ	mask and bagging ↓ クベース内でO_2投与 翌日に再びチアノーゼ出現し蘇生 → 2日後O_2中止
7. S.W	52d	40W 3d	5月	23:30	腹臥位	チアノーゼ 呼吸停止 心拍停止	mask and bagging ↓ 挿管にて呼吸管理 5日間

表3　未然型 SIDS 7例の神経学的予後

症例	予後確認時年齢	神経学的発達	神経学的検査所見
1. S.K	10歳	正常	EEG (1.5か月) WNL H-CT (2か月) WNL
2. K.K	5か月	正常	
3. M.T	1歳 9ヶ月	CP.MR (1歳 9か月死亡)	EEG (5か月) lt.seizure discharge EEG (1歳 8か月) hypsarrhythmia
4. S.Y	5歳 6か月	正常	DQ (5歳 6か月) 118
5. K.T	5歳 6か月	正常	IQ (4歳 6か月) 115
6. G.S	11か月	正常	H-CT (3.5か月) WNL EEG (5か月) WNL
7. S.W	6か月	正常	H-CT (3か月) WNL ABR (6か月) WNL

検索用テキスト OCR(光学的文字認識)ソフト使用
論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります

要約:未然型 SIDS のうち比較的発症状況の把握が可能な NICU 内発生例につき、その発生時の状況、経過および予後について検討した。7 例中 5 例が低出生体重で、発生平均日例は 40、修正在胎週数は 39.4 であった。発見時刻は準夜帯、深夜帯に多く、マスク アンド バッグの蘇生後 2 例が人工呼吸器を必要とした、CP、MR を残し 1 才 9 ヶ月で死亡した 1 例を除き良好な発達発育を示した。